

令和 3 年 2 月 9 日

令和 2 年度“ふじのくに”のフロンティアを拓く取組 意見書

一般社団法人静岡県経営者協会
専務理事 秋山辰巳

昨年はコロナ禍という未曾有の事態が起きました。こうした非常時には、フロンティア構想の早期実現も重要ですが、まず、人々の命や暮らし、その支えとなる企業活動を守るための取組が最優先です。県側では、今回のフロンティア構想の評価に当たって、コロナの影響を鑑み、推進区域の取組期間を延長し支援を継続することは企業活動の実態に寄り添っていると感じました。今後も、こうした柔軟な姿勢を継続して欲しいと思います。

フロンティアの基本戦略のうち、今回のコロナで急浮上したのが、戦略 4 の「多彩なライフスタイルの実現」だと思います。ニューノーマルという言葉通り、今までとは違った働き方や生活様式が一気に進みましたし、これからはそれが当たり前になってきます。今回第 2 次認定として推進エリアに認定された「伊豆’s ライフスタイル創造エリア」は、ワーケーションで賑わう賀茂エリアに最適なテーマだと考えます。首都圏からの地の利、自然、歴史、美味しい食べ物、どれをとってもどこにも負けない「ワーケーションの聖地」になりえると思います。それを目指してぜひ推進していただきたいと思います。

もう一つ「農業イノベーション創出エリア」にも注目しています。AOI-PARK との連携もさることながら、荒廃農地のリノベーションがポイントです。静岡県の遊休農地は面積で全国 6 位だそうで、雑草が繁茂し周囲の田に悪影響を及ぼす事例もあり、積極的な活用が求められています。また農業は AI や IOT の活用の伸びしろは大きく、スマート農業を目指していけば、若い農業従事者も増えていくと考えます。

首都圏からの地の利で言えば、サテライトオフィスの需要も出てきています。時間と場所に捉われない働き方が求められていますので、テレワークの導入支援と併せ、サテライトオフィスの誘致支援をぜひお願いします。これらの推進がゆくゆくは定住人口の増加につながるものと考えます。

今年度の評価は、5 カ年計画の折り返し年となり、3 期計画も視野に入ると思います。3 期の目標には、共生・対流の県外への拡大が掲げられていますが、今年夏ごろには、中部横断自動車道の静岡と山梨間が開通します。すでに、「バイ・ふじのくに」の取組を始めていますが、山梨県との連携も、フロンティア構想の中で検討していただければと考えます。